

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2025年2月21日）

第3版 第3刷（2025年2月1日発行）の修正・更新箇所

※第1刷からの修正箇所はhttps://www.yodosha.co.jp/correction/9784758113700_corrections.pdf をご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第11章					
173	図1			※1を参照	25/02/21
175	表1			※2を参照	25/02/21
第18章					
267	表7			※3を参照	25/01/24
268	表8			※4を参照	25/01/24
文献一覧					
309	第11章 3)	「食物アレルギー診療の手引き 2020 」 （「食物アレルギーの診療の手引き 2020 」検討委員会） https://www.foodallergy.jp/care-guide2020/	「食物アレルギー診療の手引き 2023 」 （「食物アレルギーの診療の手引き 2023 」検討委員会） https://www.foodallergy.jp/care-guide2023/	情報更新	25/02/21
312	第18章 5)	「食物アレルギー診療の手引き 2020 」 （「食物アレルギーの診療の手引き 2020 」検討委員会） https://www.foodallergy.jp/care-guide2020/	「食物アレルギー診療の手引き 2023 」 （「食物アレルギーの診療の手引き 2023 」検討委員会） https://www.foodallergy.jp/care-guide2023/	情報更新	25/01/24

※1 赤枠ならびに赤下線部の表記を変更

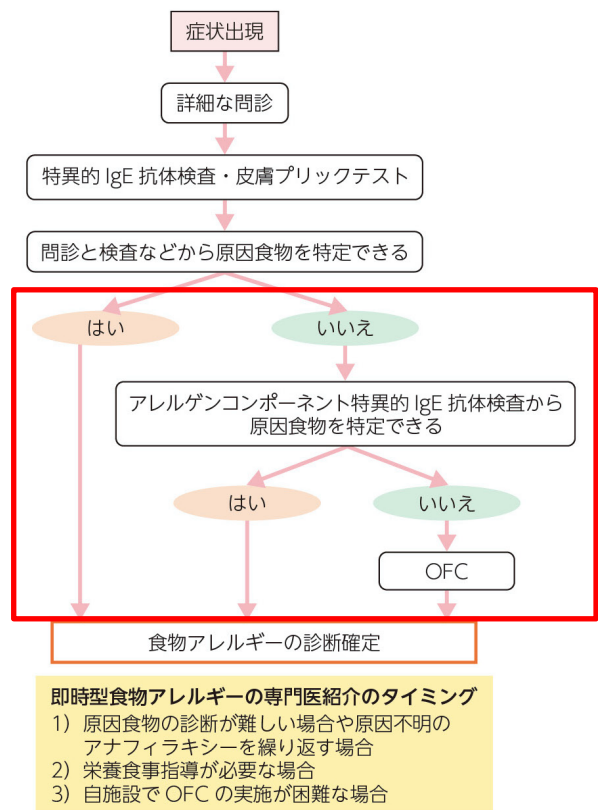


図 1 即時型症状のフローチャート

「食物アレルギー診療の手引き 2023」(「食物アレルギーの診療の手引き 2023」検討委員会)³⁾より引用

※2 表下のキャプションについて、赤下線部の表記を変更

「食物アレルギーの診療の手引き 2023」(「食物アレルギーの診療の手引き 2023」検討委員会)³⁾、「厚生労働科学研究班による食物アレルギーの栄養食事指導の手引き 2022」⁴⁾より著者作成、引用：詳細は文献 3 を参照のこと

※3 赤下線部の表記を変更

表 7 IgE 依存性食物アレルギーの臨床型分類

臨床型	発症年齢	頻度の高い食物	耐性獲得(寛解)	アナフィラキシーショックの可能性	食物アレルギーの機序
食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎	乳児期	鶏卵、牛乳、小麦など	多くは寛解	(+)	主に IgE 依存性
即時型症状(蕁麻疹、アナフィラキシーなど)	乳児期～成人期	乳児～幼児：鶏卵、牛乳、小麦、ピーナッツ、木の実類、魚卵など 学童～成人：甲殻類、魚類、小麦、果物類、木の実類など	鶏卵、牛乳、小麦は寛解しやすい その他は寛解しにくい	(++)	IgE 依存性
食物依存性運動誘発アナフィラキシー(FDEIA)	学童期～成人期	小麦、エビ、果物など	寛解しにくい	(+++)	IgE 依存性
口腔アレルギー症候群(OAS)	幼児期～成人期	果物・野菜・大豆など	寛解しにくい	(±)	IgE 依存性

「食物アレルギー診療の手引き 2023」(「食物アレルギーの診療の手引き 2023」検討委員会)⁵⁾より引用

※4 耐性乳酸菌の行を削除ならびに赤下線部の表記を変更

表8 投与禁忌の医療用医薬品

	含有成分	商品名	薬効分類
鶏卵	リゾチーム塩酸塩	<u>ムコゾーム点眼液</u>	<u>消炎酵素点眼剤</u>
	タンニン酸アルブミン	<u>タンニン酸アルブミン</u>	止しゃ剤，整腸剤
牛乳	カゼイン	アミノレバン EN 配合散，イノラス配合経腸用液，エネーボ配合経腸用液，エンシュア・H，エンシュア・リキッド，ラコール NF 配合経腸用半固形剤，ラコール NF 配合経腸用液	蛋白アミノ酸製剤
		ミルマグ錠	<u>緩下・制酸剤</u>
ゼラチン	ゼラチン	エスクレ坐剤	<u>催眠・鎮静・抗けいれん剤</u>

「食物アレルギー診療の手引き 2023」(「食物アレルギーの診療の手引き 2023」検討委員会)⁵⁾をもとに作成